補足資料

枚方市の人口動態等の分析及び今後の方向性について

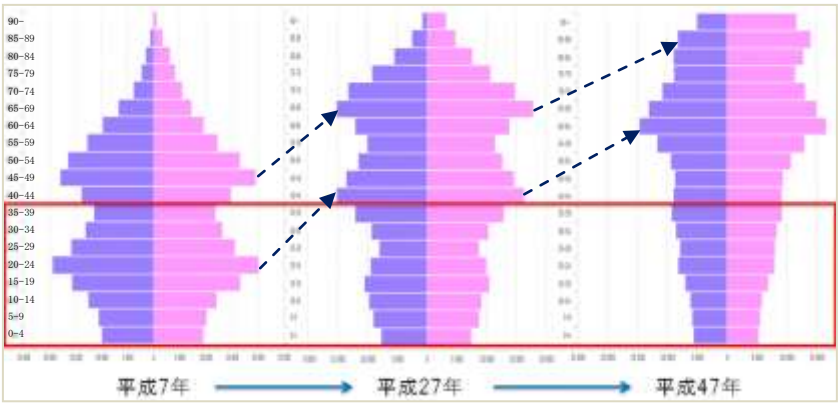
1. 人口動態等の現状について

(1)枚方市の人口構造について

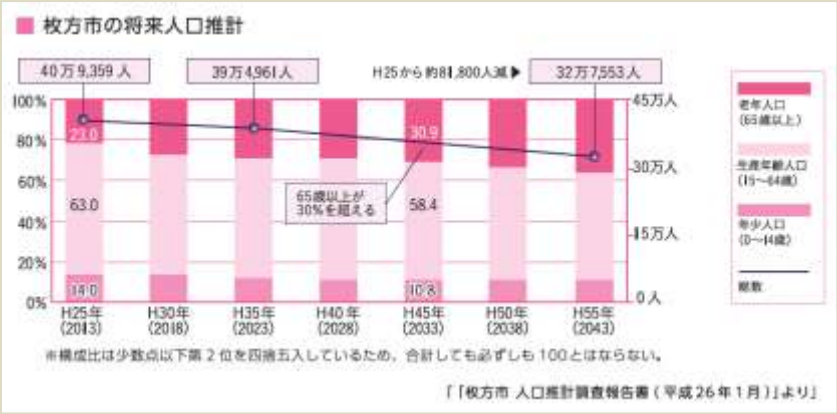
本市の人口は、平成 21 年をピーク(411,777 人)に微減傾向が続いており、将来人口推計では平成 55 年に約 81,800 人の減少が予想されています。

人口減少に伴い高齢化率も上昇していきますが、人口ピラミッドを 20 年間隔(H7→H27→H47)で見ると、40 歳以上の人口に比べ、0 歳から 39 歳までの人口が特に少なくなっていることがわかります。(H45 には 65 歳以上人口が全体の 30%を超え、高齢者人口(22.8%増)及び後期高齢者人口(88.4%増)の増減率は大阪府内で1位・2位)

人口ピラミッドの推移



日本の地域別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

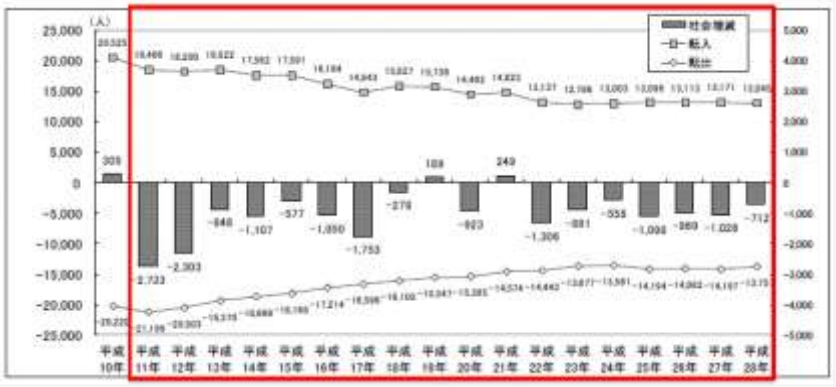


(2)枚方市の人口動態について

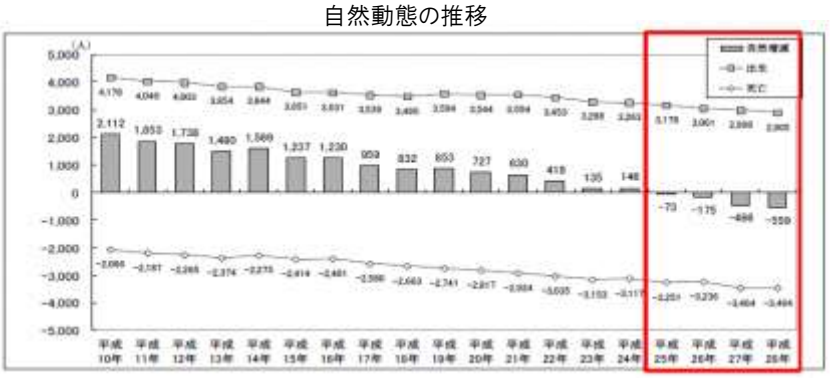
本市の人口は平成 22 年から微減傾向が続いていますが、減少の内訳として、社会動態は平成 11 年から転出超過(平成 19・21 年除く)、自然動態(出生数と死亡数)は平成 25 年から自然減となっています。

なお、本市の合計特殊出生率は、平成 27 年に 0.02 ポイント上昇し 1.29 となりましたが、国・府と比較すると依然として低い水準で推移しています。(合計特殊出生率の推移についてはP10)

社会動態の推移



自然動態の推移



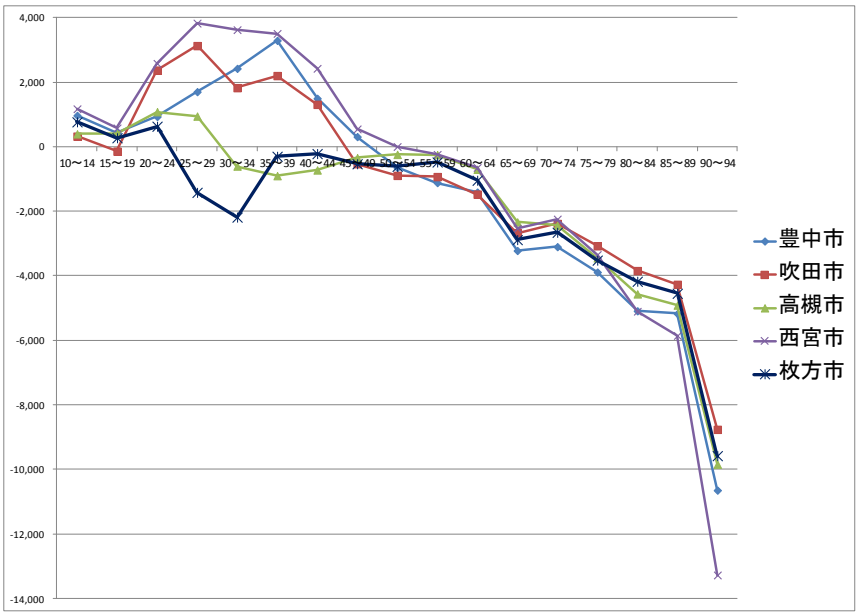
(3)コーホート増減による分析について

本市の人口の推移について、2005年(H17)から2015年(H27)のコーホート※1 増減によるグラフで見てみると、20 代前半までの年齢区分は増加していますが、25 歳以降はすべての年齢区分で減少しています。また、30歳～34歳の年齢区分が10年間で約2,000人減少しており、この区分は、子育て期の世代の中でも出生数が一番多い母の年齢区分にあたります。

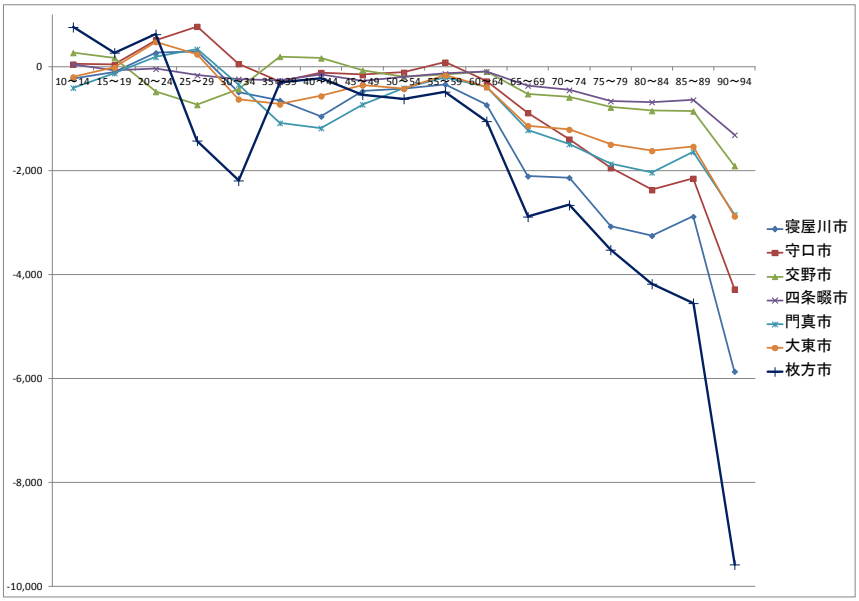
他市比較※2 をすると、同規模都市の豊中市、吹田市、西宮市は、10代から40代の年齢区分で増加していることがわかります。子育て期の世代が増加しており、合計特殊出生率の増加など今後のまちの発展が期待できると考えられます。一方、高槻市は、比較的減少数は少ないですが、本市と近いタイプとなっています。

北河内6市と比較すると、各市とも厳しい状況がうかがえます。守口市、門真市、大東市は、20 代で増加していますが、30 代以降の年齢区分で減少しています。交野市は、その傾向とは逆の推移を示しています。

同規模都市との比較



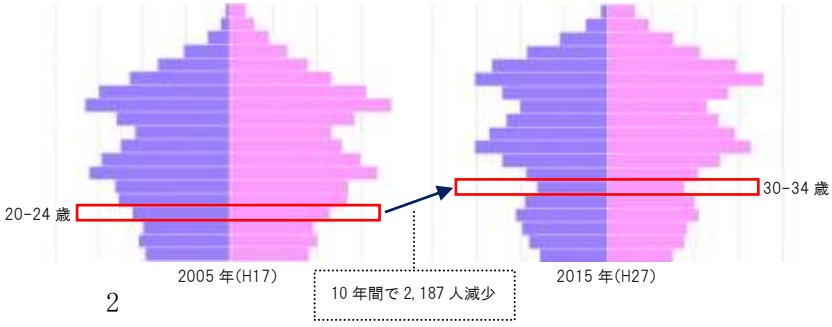
北河内6市との比較



総務省　住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(2005-2015より枚方市作成

※1 コーホート…同期出生集団(ここでは年齢5歳刻みを一つの集団とする)
※2 他市比較…○同規模都市
①豊中市(転入超過)
②吹田市(転入超過)
③西宮市(転入超過、住みたいまちランキング5年連続1位)
④高槻市(転出超過だが、近隣類似都市)
○北河内6市

◆コーホートのイメージ図



2. 人口増減の要因について

(1)枚方市の社会動態の属性について

本市の社会動態では、これまで年齢別集計や他市との社会移動の状況を示してきましたが、平成 25 年から平成 29 年(9 月 30 日時点)の世帯構成別及び年齢別で集計を行いました。

単身世帯は転出超過となっていますが、2 人以上の世帯(夫婦のみ・夫婦子あり・1 人親世帯など)は転入超過が続いています。

転入・転出の推移(世帯別)

H25	人数	世帯数	単身世帯	夫婦のみ世帯	夫婦子あり世帯	1人親世帯	その他
転入	13,096	9,637	7,701	543	832	366	195
転出	14,194	10,686	8,715	530	771	371	299
差引	-1,098	-1,049	-1,014	13	61	-5	-104

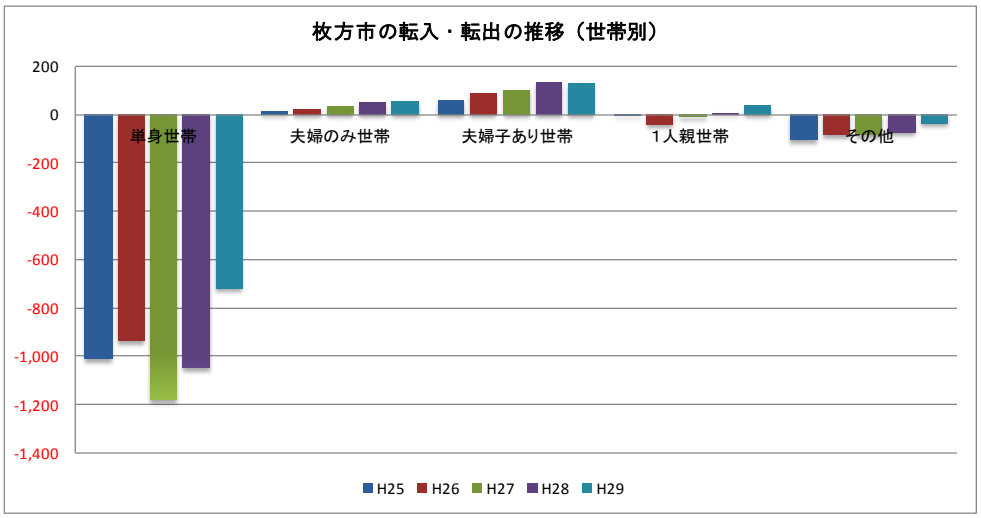
H26	人数	世帯数	単身世帯	夫婦のみ世帯	夫婦子あり世帯	1人親世帯	その他
転入	13,113	9,816	7,903	578	762	361	212
転出	14,082	10,770	8,841	558	675	401	295
差引	-969	-954	-938	20	87	-40	-83

H27	人数	世帯数	単身世帯	夫婦のみ世帯	夫婦子あり世帯	1人親世帯	その他
転入	13,171	9,801	7,894	573	777	381	176
転出	14,197	10,941	9,074	539	677	393	258
差引	-1,026	-1,140	-1,180	34	100	-12	-82

H28	人数	世帯数	単身世帯	夫婦のみ世帯	夫婦子あり世帯	1人親世帯	その他
転入	13,045	9,774	7,893	544	761	401	175
転出	13,757	10,712	8,943	494	629	397	249
差引	-712	-938	-1,050	50	132	4	-74

H29	人数	世帯数	単身世帯	夫婦のみ世帯	夫婦子あり世帯	1人親世帯	その他
転入	10,705	8,022	6,483	451	615	330	143
転出	10,899	8,565	7,204	399	487	293	182
差引	-194	-543	-721	52	128	37	-39

(9月30日現在)
市民室住民票システムより



社会動態の年齢･世帯別の区分では、単身世帯では、15 歳～19 歳の年齢区分で毎年平均 150 人程度の転入超過となっています。また、20 歳以降のすべての年齢区分で転出超過となっており、特に、20 歳～24 歳の転出超過数が増加しています。夫婦のみ･夫婦子あり世帯では 20 代から 30 代の世帯で転入超過となっています。

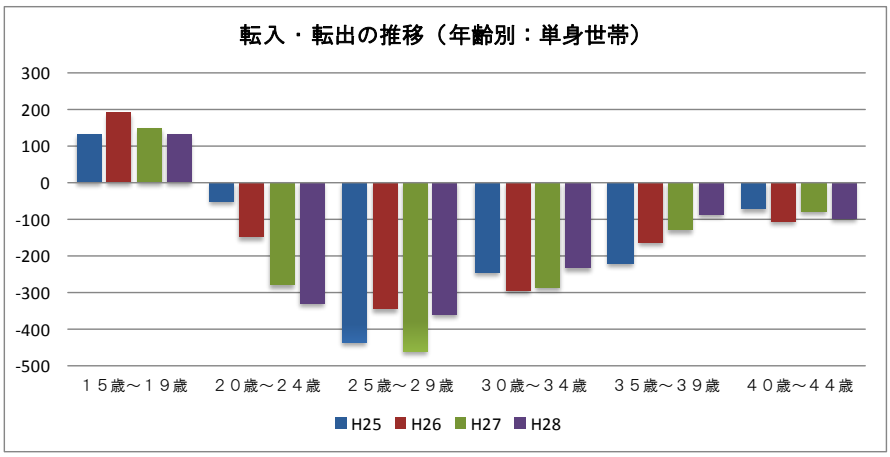
（年齢別：単身世帯）

H25	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳
転入	382	1,831	1,724	1,007	647	489	302	266
転出	250	1,883	2,163	1,253	867	562	390	276
差引	132	−52	−439	−246	−220	−73	−88	−10

H26	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳
転入	423	2,029	1,752	1,015	596	458	340	259
転出	232	2,179	2,096	1,309	759	563	373	291
差引	191	−150	−344	−294	−163	−105	−33	−32

H27	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳
転入	410	2,041	1,717	985	610	492	327	259
転出	261	2,321	2,179	1,272	738	573	386	304
差引	149	−280	−462	−287	−128	−81	−59	−45

H28	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳
転入	412	1,963	1,826	1,044	584	456	366	252
転出	280	2,292	2,186	1,277	671	553	413	297
差引	132	−329	−360	−233	−87	−97	−47	−45



（年齢別：夫婦のみ世帯）

H25	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
転入	6	65	119	74	48
転出	7	60	57	61	67
差引	−1	5	62	13	−19

H26	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
転入	9	63	114	72	60
転出	7	62	99	48	63
差引	2	1	15	24	−3

H27	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
転入	3	78	118	77	43
転出	4	61	77	59	53
差引	−1	17	41	18	−10

H28	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
転入	6	89	114	67	42
転出	5	64	72	52	49
差引	1	25	42	15	−7

（年齢別：夫婦子あり世帯）

H25	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
転入	13	105	223	209	133
転出	7	81	150	192	144
差引	6	24	73	17	−11

H26	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
転入	13	84	185	193	118
転出	9	70	155	136	125
差引	4	14	30	57	−7

H27	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
転入	15	72	199	181	148
転出	11	83	167	135	109
差引	4	−11	32	46	39

H28	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
転入	16	88	202	162	146
転出	9	64	156	127	107
差引	7	24	46	35	39

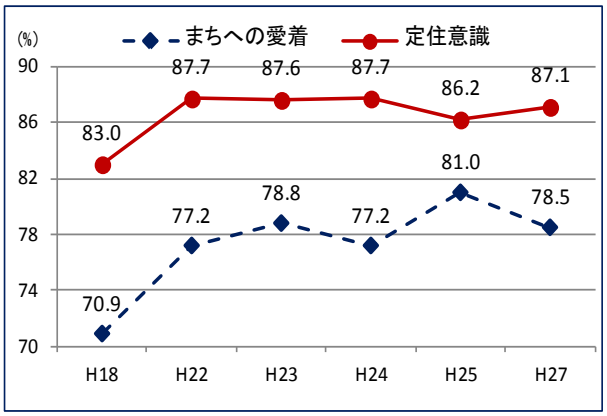
(2)社会動態の要因について

①アンケート関係について

これまでの社会動態に関する属性分析では、特に 20 代の単身世帯の転出超過が顕著になっています。

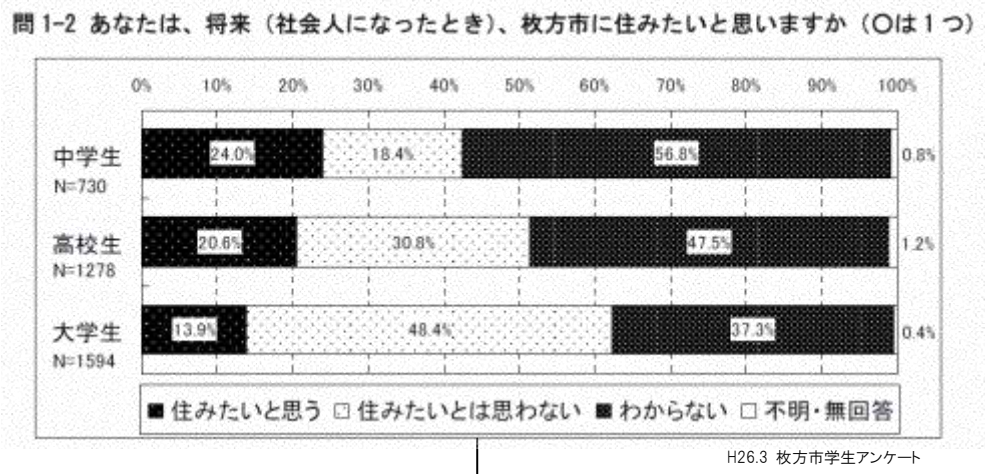
本市の定住意識については、これまで実施してきた「市民意識調査」において、枚方市民の定住意向や愛着は高い水準で推移していました。一方、平成 26 年に市内の大学に通う学生に対して実施した「学生アンケート」では、大学生がまちに住みたいと思う意識が非常に低くなっており、単身世帯、特に 20 歳～24 歳の転出超過の傾向が強くなっている要因の一つではないかと考えられます。

枚方市の「まちへの愛着」・「定住意識」

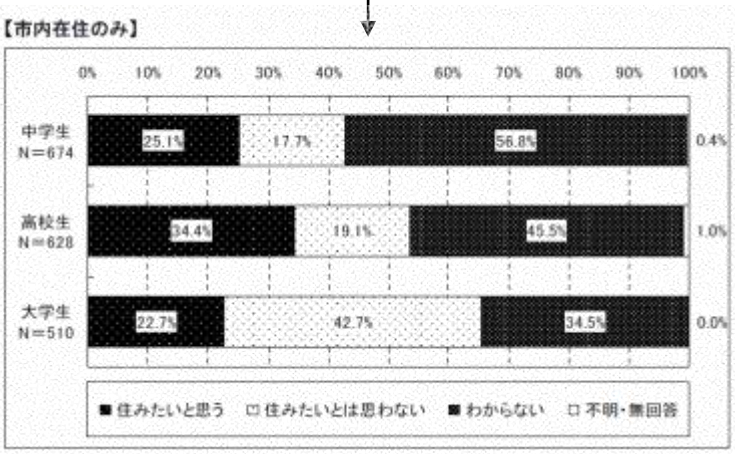


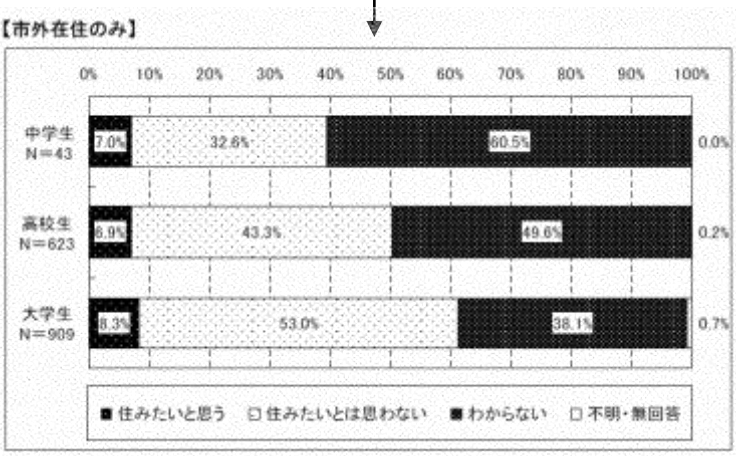
枚方市市民意識調査

枚方市の定住意向(学生)



H26.3 枚方市学生アンケート





平成 28 年の「転入・転出アンケート」では、転居のきっかけとして、移動者のうち単身者の多くが「仕事の都合」で転出しており、夫婦のみ世帯は「結婚・出産など」、夫婦子あり世帯は「親族との同居・近居」の割合が高くなっています。また、新たな住まいを決めた理由として、単身者を含むすべての世帯区分で「公共交通の利便性」が高くなっており、夫婦のみ世帯は「まちのイメージ」、夫婦子あり世帯は「生まれ育ったまちで愛着がある」の割合が比較的高くなっています。

転入・転出のきっかけ、新たな住まいを決めた理由

転居のきっかけ	転　入	転　出
単身者	「仕事の都合」 63.2% 「学校の都合」 9.9%	「仕事の都合」 71.3% 「住宅の都合」 5.3%
夫婦のみ世帯	「結婚・出産など」 50.0% 「仕事の都合」 32.5%	「結婚・出産など」 60.5% 「仕事の都合」 26.8%
夫婦子あり世帯 （子育て世帯）	「仕事の都合」 43.0% 「親族との同居・近居」19.2%	「仕事の都合」 46.3% 「親族との同居・近居」25.0%

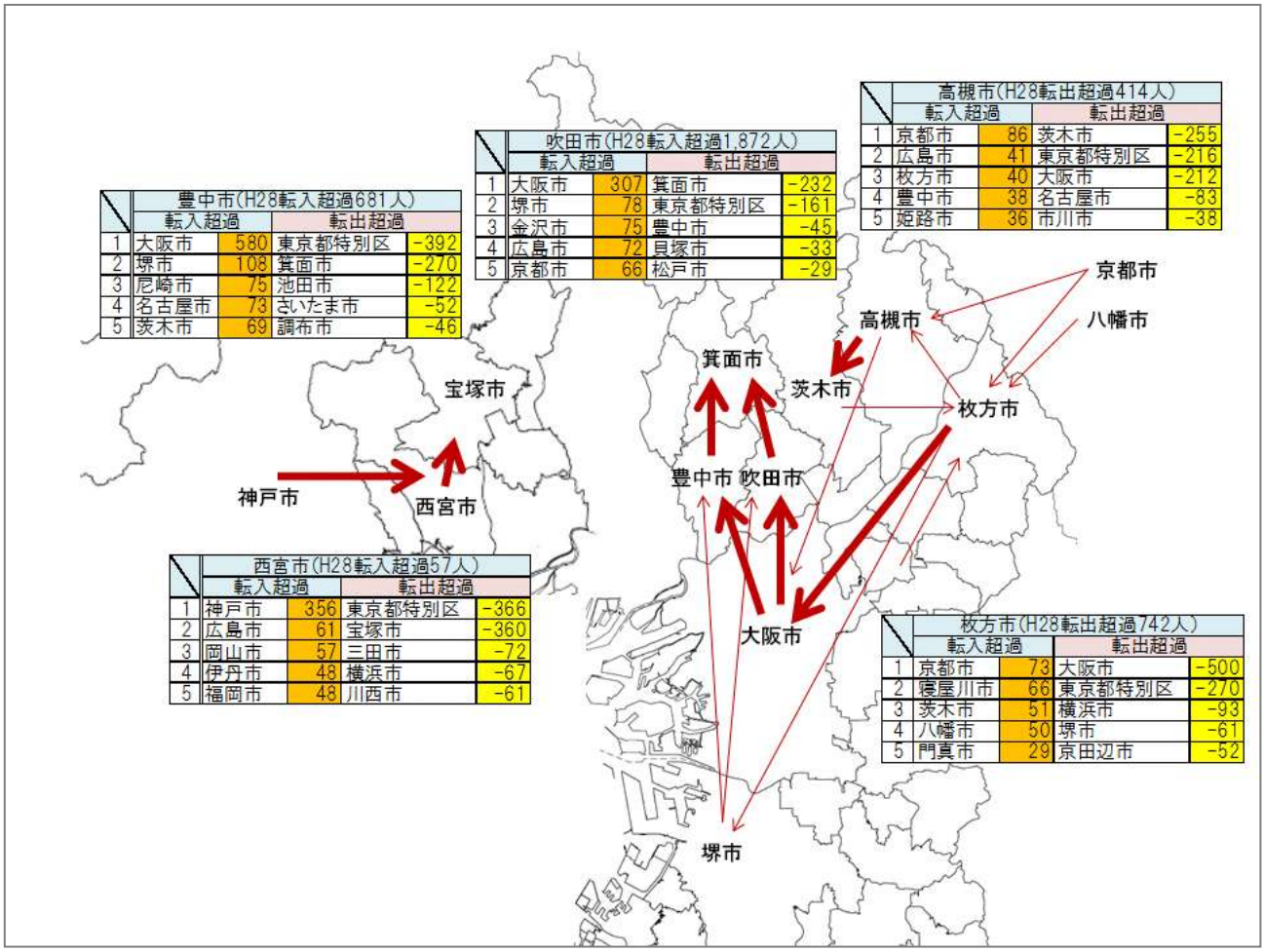
新たな住まいを決めた理由	転　入	転　出
単身者	「公共交通の利便性」 34.6% 「買い物の利便性」 16.4% 「特にない」 16.4%	「公共交通の利便性」 40.7% 「特にない」 13.1% 「買い物の利便性」 11.3%
夫婦のみ世帯	「公共交通の利便性」 36.5% 「買い物の利便性」 19.8% 「まちのイメージが良い」19.0%	「公共交通の利便性」 35.8% 「まちのイメージが良い」18.4% 「買い物の利便性」 16.3%
夫婦子あり世帯 （子育て世帯）	「公共交通の利便性」 24.4% 「生まれ育ったまちで愛着がある」23.3% 「まちのイメージが良い」 22.1%	「公共交通の利便性」 24.4% 「生まれ育ったまちで愛着がある」18.3% 「自然が豊か」 13.4%

H28 枚方市転入・転出アンケート

②他市の転入･転出先の傾向について

次に、転入先、転出先を市町村別でみると、近隣でかつ鉄道沿線の市町村への移動が多くなっています。他市の状況では、吹田市や豊中市では、本市とは異なり、大阪市からの転入超過が多く、転出では東京都など他の都道府県の都市部への移動が多い傾向となっています。

主な転入･転出先一覧（他市比較）



豊中市(H28転入超過681人)				
	転入超過		転出超過	
1	大阪市	580	東京都特別区	-392
2	堺市	108	箕面市	-270
3	尼崎市	75	池田市	-122
4	名古屋市	73	さいたま市	-52
5	茨木市	69	調布市	-46

吹田市(H28転入超過1,872人)				
	転入超過		転出超過	
1	大阪市	307	箕面市	-232
2	堺市	78	東京都特別区	-161
3	金沢市	75	豊中市	-45
4	広島市	72	貝塚市	-33
5	京都市	66	松戸市	-29

高槻市(H28転出超過414人)				
	転入超過		転出超過	
1	京都市	86	茨木市	-255
2	広島市	41	東京都特別区	-216
3	枚方市	40	大阪市	-212
4	豊中市	38	名古屋市	-83
5	姫路市	36	市川市	-38

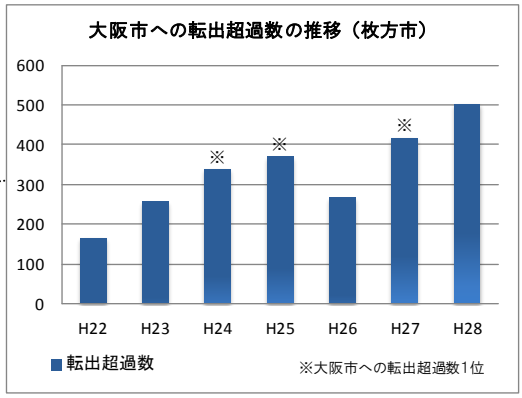
西宮市(H28転入超過57人)				
	転入超過		転出超過	
1	神戸市	356	東京都特別区	-366
2	広島市	61	宝塚市	-360
3	岡山市	57	三田市	-72
4	伊丹市	48	横浜市	-67
5	福岡市	48	川西市	-61

枚方市(H28転出超過742人)				
	転入超過		転出超過	
1	京都市	73	大阪市	-500
2	寝屋川市	66	東京都特別区	-270
3	茨木市	51	横浜市	-93
4	八幡市	50	堺市	-61
5	門真市	29	京田辺市	-52

H28 総務省住民基本台帳人口移動報告
※その他移動含む

社会移動の特徴（移動先の矢印は、主な近隣市のみ示しています）

･東京一極集中の傾向は、大阪府内の市町村も同様。
･京阪沿線の市町村は枚方市への転入超過の傾向が強い。
　※H28 は京都市、寝屋川市、八幡市、門真市、交野市
　（守口市はほぼ同数）
･ほとんどの地域で同じ鉄道沿線の移動が比較的多くなっているが、吹田市と豊中市は、東京都を含む他の都道府県の主要都市への移動が多い
･大阪府内の多くの市町村が大阪市への転出超過の傾向が強く、特に、枚方市は大阪市への転出超過の傾向が強い。
　※過去 6 年間で大阪市への転出超過数 1 位が 3 回
　（いずれも上位 5 市）
･大阪市から転入超過の傾向が強い府内の主な市町村は、吹田市、豊中市、箕面市。(H28)



③住宅・土地関係について

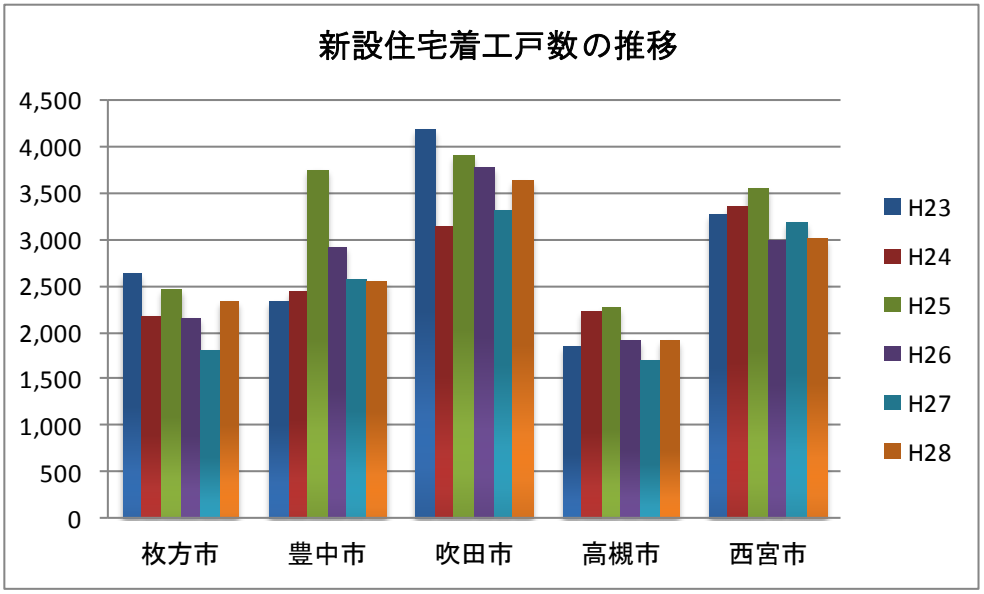
転入・転出の大きな要因の一つに「住宅の都合」がありますが、建築動態統計調査の新設住宅着工戸数（持家、貸家など）を見ると、平成 28 年までの 6 年間の総戸数では、本市は、吹田市、西宮市、豊中市よりは少ないものの、高槻市よりも多くなっており、住宅については一定の供給数があると考えられます。また、北摂地域の新設住宅着工戸数については、平成 25 年をピークに減少傾向にあることから、今後の社会動態にも影響が出てくると考えられます。

なお、土地取引価格の土地単価（円／㎡）を比較すると、平均値では 5 市の中では一番低くなっています。比較的若い年代でも住居を購入しやすい価格帯であると考えられる一方で、土地価格が下落し続けると、売却する際の価格も下がり、将来的な売却や処分が難しくなることなどが懸念されます。

新設住宅着工戸数・土地価格（他市比較）

（H23～28）		枚方市	豊中市	吹田市	高槻市	西宮市
新設住宅着工戸数	H23	2,628	2,333	4,195	1,844	3,266
	H24	2,178	2,440	3,142	2,209	3,345
	H25	2,454	3,738	3,903	2,254	3,559
	H26	2,163	2,916	3,773	1,917	2,974
	H27	1,814	2,576	3,301	1,697	3,171
	H28	2,322	2,548	3,643	1,904	3,001
	合計	13,559	16,551	21,957	11,825	19,316
土地価格（円／㎡）平均値		118,394	194,721	199,304	160,714	235,074

国交省 建築動態統計調査



次に、市内に新築マンションが建設された場合の市内転居・市外転入の内訳を見ると、平均でそれぞれ 50%前後になっています。マンションなどが新設された場合でも、入居者の半数は市内からの転居ということがわかります。住宅開発が進むと、他市からの人口誘導が加速することが期待できますが、その一方で、市内転居の移動を促すことにつながります。

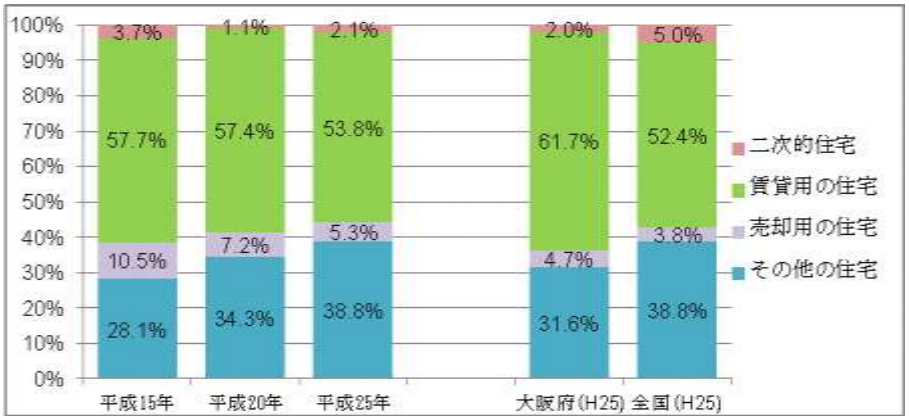
市内新築マンション比較（市内・市外）

最寄駅	全体	枚方市内（転居）	枚方市外（転入）
A（枚方公園駅）	1,296	616	680
B（枚方市駅）	119	75	44
C（枚方市駅）	594	269	325
D（御殿山駅）	413	235	178
E（樟葉駅）	717	405	312
F（津田駅）	470	237	233
計	3,609	1,837（50.9%）	1,772（49.1%）

市民室住民票システム

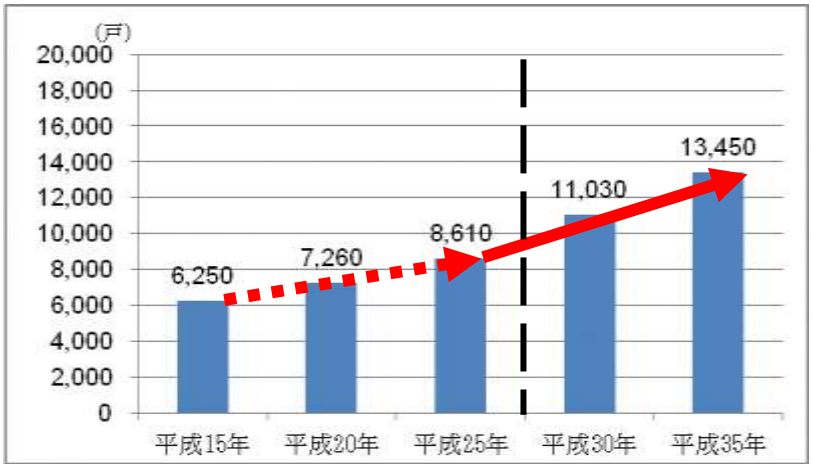
空き家の状況について、総務省統計局の住宅・土地統計調査によると、空き家の種別としては、「その他の住宅」とされる、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や、建替えなどのために取り壊すこととなっている住宅などの占める割合が増加しており、本市において管理不良になりやすい空き家が増加していることが示されています。なお、その割合（平成 25 年）は全国平均の 38.8%と同等ですが、大阪府の 31.6%に比べ高く、今後、増加傾向にあることが推計において示されています。

枚方市の空き家種類別割合の変化



（出典：平成 15 年～平成 25 年　住宅・土地統計調査結果「総務省統計局」）

枚方市の「その他住宅」となる空き家数推計



枚方市空家等対策計画（案）

(3)自然動態の要因等について

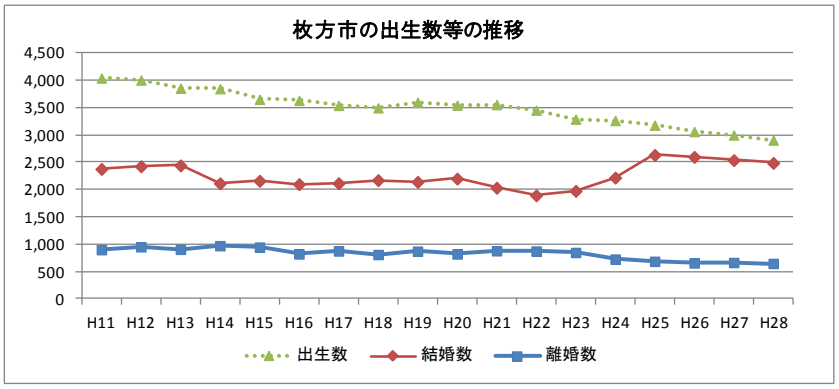
自然動態の要因分析として本市の出生数の推移を見ると、平成 11 年に約 4,000 人であった出生数は平成 28 年には約 2,900 人となっており、1 年間に生まれる子どもの数が約 1,100 人減少しています。

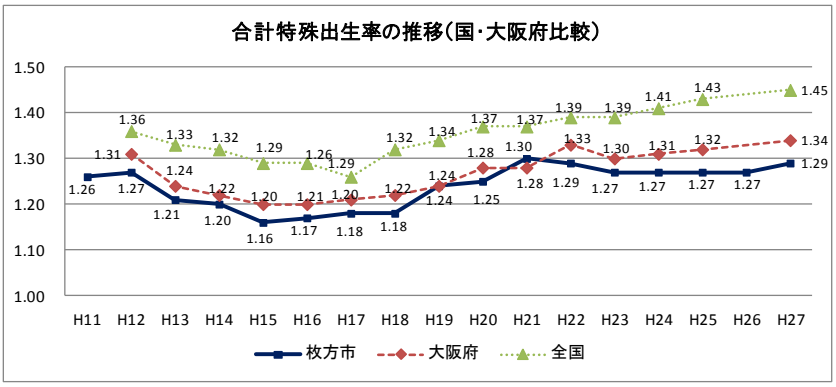
また、婚姻数は一時的に増加したものの、その後横ばいとなっています。その間、離婚数は減少傾向で推移しています。

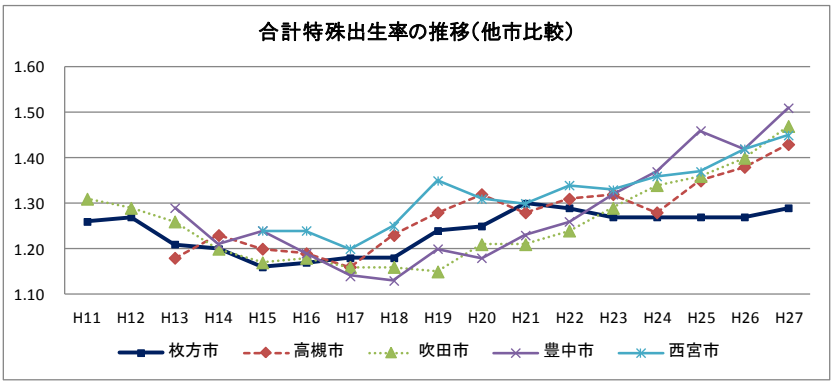
次に、合計特殊出生率※の推移について国・大阪府及び他の状況と比較しています。

本市は、平成 15 年に 1.16 と低い水準を示した後、そこから平成 21 年の 1.30 まで上昇しましたが、それ以降は横ばいとなっています。

国・府の値は上昇し続けており、他市比較をしてもいずれも上昇傾向にあることから、合計特殊出生率が横ばいとなっている本市特有の要因があると考えられます。





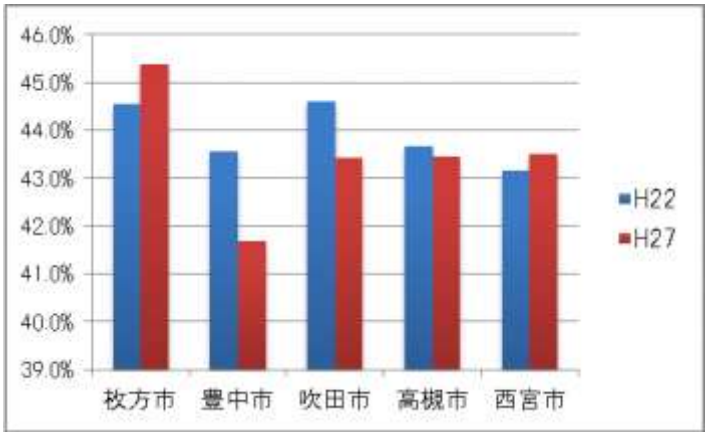


大阪府 人口動態調査統計データ及び比較市統計書より枚方市作成

※ 合計特殊出生率…15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

そこで、本市の合計特殊出生率が上昇しない要因について、子どもの内訳(1 人目から 3 人目以降)、15 歳から 49 歳までの女性の世帯の状況や年齢構成を他市と比較しましたが、大きな違いはありませんでした。しかし、未婚率については、数値の低いまちは合計特殊出生率が高くなっており、本市の未婚率の状況と何らかの因果関係があると考えられます。

未婚率の推移(他市比較)



国勢調査 人口等基本集計

(4)その他アンケートによる分析について

これまでの各種アンケートや庁内委員会での意見の中で、「人との関わり」や「地域での活動」、「まちのイメージ」などについても、市民が住み続ける、転入者の定住につながる要素の一つとして考えられるのではないかとの意見がありました。

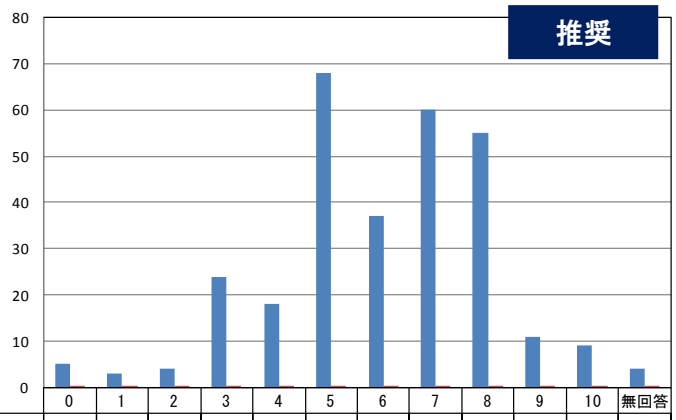
本市の市民意識調査では、まちづくりへの参加に関する実態として、まちづくり活動へ参加していない市民の割合は 60%となっています。また、市民参加をさらに広げていくための大切なこととして、さまざまなメディアを通じた積極的な情報発信や、市民参加のイベント内容の充実などの割合が多くなっています。

本市の現状では市民のまちづくりへの参加実態は低くなっていますが、市政モニターを活用して枚方のまちの魅力の推奨、まちのための行動に対する参加意欲、感謝の強さを 10 段階で試行的に調査を行いました。

調査結果では、行動したいという意向やそういった行動に対する感謝に対する強い傾向が出ている一方で、枚方の魅力を他者に推奨したい意向は、比較的低い値を示しています。

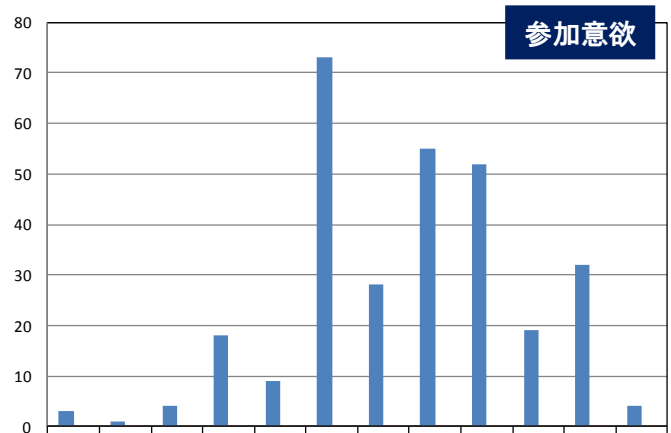
市民参加意向などに関するアンケート結果

枚方の魅力を、友人・知人にどの程度の気持ちでおすすめしたいと思いますか。
（最も強い気持ちを「10」とし、まったく思わない場合は「0」）



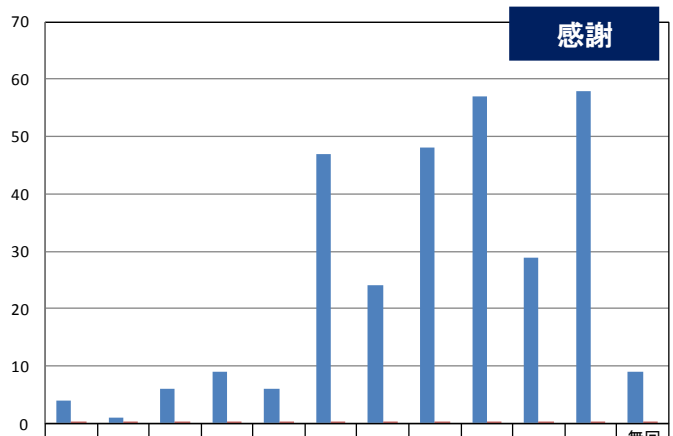
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答
回答数	5	3	4	24	18	68	37	60	55	11	9	4
回答率	1.7%	1.0%	1.3%	8.1%	6.0%	22.8%	12.4%	20.1%	18.5%	3.7%	3.0%	1.3%

枚方がよくなるために行動したいと思いますか。
（最も強い気持ちを「10」とし、まったく思わない場合は「0」）



	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答
回答数	3	1	4	18	9	73	28	55	52	19	32	4
回答率	1.0%	0.3%	1.3%	6.0%	3.0%	24.5%	9.4%	18.5%	17.4%	6.4%	10.7%	1.3%

枚方がよくなるための行動に対して、感謝の気持ちはありますか。（最も強い気持ちを「10」とし、まったく思わない場合は「0」）



	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答
回答数	4	1	6	9	6	47	24	48	57	29	58	9
回答率	1.3%	0.3%	2.0%	3.0%	2.0%	15.8%	8.1%	16.1%	19.1%	9.7%	19.5%	3.0%

H29 枚方市市政モニターアンケート

3. RESAS（地域経済分析システム）を活用した分析について

産業構造や人口動態、人やモノの流れが可視化できるビッグデータ活用システム「RESAS（リーサス（地域経済分析システム））」では、所得からの支出が市域外へ流出している傾向が強くなっており、市外への通勤・通学が多く、市内への来訪者が少なくなっているという分析結果が出ています。（昼夜間人口比率87.7%）これは、ひらかたパークやくずはモール、T－SITEなど一部集客力のある商業施設はあるものの、そういった資源が市域全体への交流人口拡大につながっていないことが要因の一つと考えられます。

4. 今後の方向性について

人口動態には、転入・転出による「社会動態」と、出生と死亡による「自然動態」の 2 つの要因があり、それぞれ就学、就職、結婚、出産、住宅購入、親の介護などライフサイクルのさまざまな時点で移り変わるものです。本市においては、平成 21 年度から人口減少の転換期を迎えており、定住促進・人口誘導対策として、人口減少に歯止めをかけつつ持続可能なまちづくりを進めていくため、市内外の人たちのライフサイクルのスポットを捉えつつ、さらなるまちの魅力の掘り起しやより効果的な情報発信に取り組む必要があります。

また、本市における若者世代（特に単身）の転出超過が大きくなっている状況を踏まえると、10 年、20 年先も本市に定住する、もしくは、子どもの頃から自分が住んでいるまちについて関心を持ち、まちの将来像を考えることで、本市への愛着を高めていく施策が必要となります。一度就職等で転出しても、結婚や出産をきっかけに、転出者が「枚方市に帰りたい」という思いにつなげていくことが重要となります。

今後、これまで取り組んできた定住促進・人口誘導対策に加え、人口動態等の現状分析に基づき新たな施策の検討、既存事業の充実を図るとともに、本市の施策全般にわたり、市内の方には本市に対する愛着や本市の魅力の向上への取り組みと、市外の方には、本市の知名度の向上を目指す取り組みを、マーケティングに基づくターゲット設定により、シティプロモーション※を戦略的、効果的に推進していく必要があります。

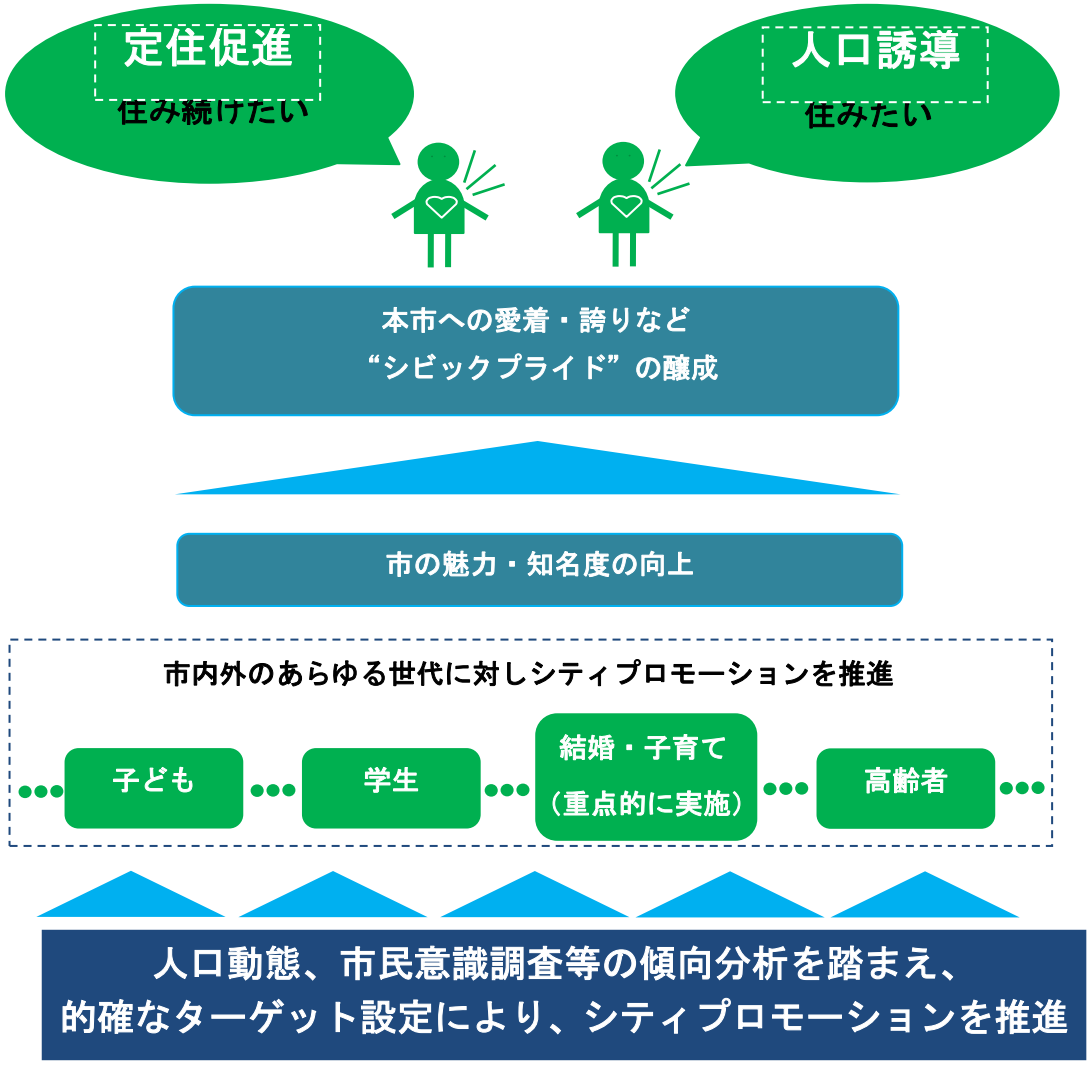
●分析結果を踏まえた具体的な施策事例（現時点での検討案）

○施策事例

現状分析	主な施策の方向性
・仕事の都合などによる単身世帯の転出超過 ・一定の住宅供給量があり、土地単価も比較的安い ・新設マンションへの入居者の半数は市内転居（空き家の増加） ・大阪市への転出超過の傾向が強い	・職住近接の推進 ・枚方市へのUターンの促進 ・都市部との差別化
・若者の転出超過、定住意向の低下	・若者層等の経済基盤の改善 ・大学との連携による若者のまちへの関心向上
・出生数が少ない（合計特殊出生率が低い） ・未婚率が高い（婚姻率が低い）	・安心して出産するための仕組みづくり ・地域で子育てを支える仕組みの再構築 ・結婚支援
・市民のまちづくり活動などへの参加が少ない ・市民のまちの推奨度が低い	・まちへの愛着増進に係る施策

・交流人口が少ない（RESASの分析より）	・観光施策の充実

【参考資料】シティプロモーション推進のイメージ



※シビックプライド

シビックプライド（Civic Pride）とは、まちへの「愛着」「誇り」に限らず、人々がそのまちに関わることでの共感、感謝、さらにはまちの魅力を他者へ推奨するといった、個々人の意識を表します。